

## 特定非営利活動法人(NPO) 子どもネットワークセンター天気村 その1

### フットワークよく変幻自在に

### 子どもたちへの仕掛けを続けています!

代表理事 山田 貴子



社会の後継者である、真に「生きる力」をもつ子どもたちの育成のためには、子どもたちを取り囲むさまざまな環境を考え直し、子どもたちが置かれている状況を広く考えるとともに、啓発を促す事業や体験を通じた、生きた教育を企画・実践する場と機会を提供していくことが必要であると考え、1987年、子ども・大人・お年寄り・障害者等、社会のさまざまな層の人々が、自由に気楽に集えるようにと、教養棟・プレイルーム・児童館(こんべいとうハウス)・喫茶を兼ね備えた天気村を設立。たくさんの方のスタッフに支えられて、幼児自然野外体験「こんべいとう」・中高生ボランティアグループ「一歩」・各種ワークショップを主催・開催しました。

1999年4月、NPO法人格を取得し、名称を「特定非営利活動法人子どもネットワークセンター天気村」と改め、地域の人々のみならず、新しい人間関係を構築する人々に向けて、より広いネットワークの構築につとめています。

子どもへの仕掛けをつづけている天気村ですが、NPO活動を通して感じていることをお話ししたいと思います。

はっきり言って、こどもはいつの時代も変わっていません。白紙状態で生まれてくることは変わらない。変えてしまうのは大人です。私たちは今、真剣に考えなければならないこと、やらなければならないことを整理し、やれることはどんどんすすめて行動としてあらわしていかなくてはならないと切実に考えています。

子どもたちのおかれている日常の生活環境からゆとり・安心・なごみというようなキーワードを取り戻すために、いくつかのコンセプトを提案したいと思います。

#### ■時間の流れを感じられること

幼児自然野外体験「こんべいとう」は、その日のタイムスケジュールも、目的も、目標も何もありません。季節を感じるために、そのときに季節を感じることでできる場所を求めて移動します。四季によってさまざまな植物や生物を発見したり、何千年と生きている古木の前で歴史の時間を感じたり、お泊り会では朝夕をじっくり感じたりします。街においては、スクラップ・アンド・ビルトの考え方で古いものは壊し、新しいものを乱立したことで、古い町並みやその町に息づいてきたコミュニティまでも壊されていくという状況ですが、古いものを過去から現在、未来へと受け継ぎ、その存在が美しいということ、そしてその価値を評価し新たな価値を再発見していく中で、時間の流れを感じてほしいと思っています。

#### ■未完成であるということ

空間というものの中に未来という時間概念を入れ、未来において生きた空間として利用できるスペースを創造したいと思っています。

私たちの遊びのフィールドのひとつに金勝の里

山があるのですが、そこは魅せられるような遊具があるわけでもなく、何もない段々畑のある空間なのです。冒険遊び場として、その時かかわった人自身の手でつくられ、変化しつづけるような空間として関わり、創造しています。

未来において関わってくれた子どもたちや大人のニーズを満たすことができるように、そして、過去からの変化のプロセスが分かるように、また、その人たちがこの空間(里山)を自分たちのものとして意識でき、自分たちのアイデンティティと感じ、誇りと思えるように、「未完成である」というコンセプトは重要であると思っています。

#### ■遊びがあるということ

型にとらわれない遊びの中で見られる子どもたちの声や豊かな表情、雰囲気などは、子どもたちに関わる私たちにも安心やゆとりをもたらしてくれます。

街の中に遊びの空間があれば、大人もお年寄りも遊びの中から生涯教育のようなものができ、堅苦しくなく生きがいをみつけることができ、人生をより豊かにしてくれるのではないのでしょうか?

子どもと子ども、子どもと大人が向き合い、言い合い、ぶつかり合う中で、何を主張し、何を我慢しなくてはならないかということが、身体を通して理解でき、理性も感情も意思も鍛えられ、強くなっていくのだということを忘れないようにしなくてははいけないと思います。

子どもたちによる「子ども時代」を充分に送ってもらいたい…。昔は…あった。今は同じようなことは無理だ…などときめつけることなく、時代にあった仕掛けを考え、いつの時代にも変わらない「子ども時代」を贈ってやるのが大人としての使命ではないのでしょうか。創造です。再興なんです。

今、こういった場を行政、自治などさまざまな地域での枠組みをこえたネットワークの上に、子どもたちに提供していきたいという思いでいっぱいです。活動をつづけている中で、まだまだ子どもたちの問題を大人自身の問題として受け止めていない方も多く、子どもたちの悲劇を人ごとのようにすましている人たちへ、どうこの思いに共感してもらえるか、今後の活動を模索中です。

このように「創造的日常生活の形成」を仕事としているNPO…それが天気村です。

何が起ころうと、困難なことにぶちあたろうと、それを問題視せず逆にヒントとして創造し、ステップアップしていく。こうでなければならぬ…などということではなく、常に時代と呼吸し、ニーズをつかんで変化していく。

フットワークよく変幻自在。雨の日は雨の中へ、晴れの日は晴れの中へ…。まさにお天気しだいの柔軟性。それが天気村のモットーなのです。

とかく「変わることは不安定?」という意味にとられがちですが、NPOの立場からすると、真実を知ってもらいたい!大切なことを理解してもらいたいがための最大のパフォーマンスなのです。

従ってこのような感覚で世の中に存在していると、たとえば子どもと大人、人工と自然、必然と偶然、内部と外部、幸福と不幸、危険と安全…など、互いに相反するすべてのものが、実は混じり合ったり、溶け合ったりすることができるものであり、その中から新しい社会に必要な概念が浮かび上がってくるように思えます。

少子化傾向にある今…近隣異年齢集団の構成が子ども数減少で難しいため、それに代わる地域での「多様性」と「関係性」を含んだコミュニティ構築の仕掛けとして、21世紀に向けて「こどもあそび隊」という企画を考えました。遊びのきっかけづくりです。

子どもを大事にするという視点で、NPOが地域の子どもたちに積極的に関わりづくりを投げかけ、たくらんでいくのです。どんどん仕掛けて子どもたちをワクワクドキドキするような遊びの世界へ引っぱってこようと思っています。

「こどもあそび隊」については次回詳しくお伝えします。乞うご期待!!

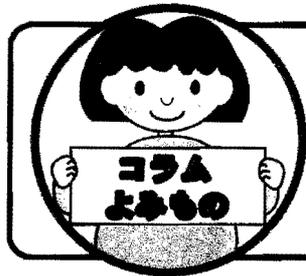
#### ■特定非営利活動法人

子どもネットワークセンター天気村  
525-0033滋賀県草津市東草津1-1-15  
TEL/FAX 077-564-7868



■天気村のことを掲載するにあたって・・・今年5月4日滋賀県でチャレラン大会が開催されます。このチャレラン大会にスタッフとして一緒に活躍して下さる方、そしてこれを機会に滋賀県内でチャレラン遊び活動と一緒に続けて下さる方をさがしていました。湖国21世紀記念事業協会から紹介され、さっそく滋賀県草津市に会いに行きました。その場でピピタの原稿依頼をしました。チャレランが目指す「あそびのきっかけづくり」を地元に着実に実践なさっているからです。

いろいろな方法でいろいろな所で、子どもたちのことを考えて活動している人がたくさんいます。ピピタでどんどん紹介して全国の方に知ってもらい、ネットワークをつくりたいと考えています。(ピピタ編集室 水澤ゆたか)



## 特定非営利活動法人(NPO) 子どもネットワークセンター天気村 その2 子どもが主役!! エココインプロジェクトとは!!

代表理事 山田 貴子



### 少子化傾向にある今…近隣異年齢

集団の構成が子ども数の減少で難しいため、それに代わる地域での「多様性」と「関係性」を含んだコミュニティー構築の仕掛けとして、21世紀に向けて「くさつあそび隊」という企画を考えました。遊びのきっかけ作りです。

子どもを大事にする視点で、NPOが地域の子どもたちに積極的にかかわりを投げかけ、しくんでいます。どんどんしかけて子どもたちがワクワクドキドキするような遊びの世界へ引っ張ってこようと思っています。

### 「くさつあそび隊」はどのような

しくみなのかといいますと、子どもの生き生きとした姿の中で、昔も今も変わらないのは、何かを集めること。昔でいうメンコのような遊びです。今の子ども達は、昔でいうでのメンコのやりとりと同じような感覚で、正義の味方のヒーローやプロのサッカー、野球選手等が写し出されているカードの交換を年齢域を越えてやりとりしている姿がみられます。このいつの時代もすたれない”こどもの領分”でなんとか自然体験その他、ボランティア活動、スポーツ活動、音楽活動、創作、表現、企画等、さまざまな体験を自然に楽しくできないだろうかと考えていました。この集める、交換する、ふれあう、年齢交流などの条件をクリアするのは昔で言うメンコの世界だと思いました。

### 「あそび隊」とは、自分たちの街を

自分たちの五感で「遊びながら知っていこう」そして「もっと住みやすく、楽しく、新しいまちをどんどん創造していこう」というやる気満々、好奇心、冒険心いっぱいの異年齢集団です。

そして、この部隊に入会(コミットメント・意思表示)すると、エココインが5個もらえます。その他、あそび隊手帳、登録カード、毎月の企画がのっている「月刊てんき予報」が渡され、企画に参加するたびにコインが1個もらえるようしくみになっています。また、体験して感じたこと、思ったことを報告用紙に書いて出してくれた子どもに、報告書1枚につきコイン1個あげています。

### このエココインは12種類。メ

ダカ、ナマズ、ホタル、ブラックバスなど、生命のシンボルである琵琶湖の水に関してつ

ながりを持つさまざまな小動物が12種類のキャラクターになっており、子どもたちは知らず知らずのうちに各キャラクターに親しみを覚え、まさにワクワクドキドキしながら集めてくれています。

また、同じキャラクターのコインが重なると、年齢を超えた交換やりとり合戦の始まり。その勇ましい姿に子どもたちの「生きる力」をまのあたりにしています。

12種類集めると、あらかじめ環境に関して力を入れている企業に対して、環境グッズを提供していただいているのですが、そのグッズと交換できるようにしています。

天気村はこれをもとに、子どもたちに縦のつながり、横のつながりを持って、友達の輪を広げていって欲しいと思っています。

まずは、子どもを中心としたコインの流通を目指していますが、今後はそれぞれの地域での多様性、関係性を含んだコミュニティー構築の仕掛けとして活用していくことがエココインの夢です。

自由でしくまない場を提供し、時間と空間と人間がゆっくり深く関わりあえる自然なやりゆきを楽しんでいこうと思っています。

### ここで、「月刊てんき予報」

あしたは晴れか?さてまた雨か?曇りもあればかみなりさんも落ちてくる…いろんな日があってもいいよね…いろんな毎日を楽しんじゃえ!!…で始まる毎月のテーマと活動内容を少し紹介します。

### 5月 テーマは街(まち)

まちは宝の山なんだ。もしかしたらすごい伝説が残っていて、えたいのしれないものが神社に奉納されているかも…まちの空気を自分たちの肌で感じながら、少しずつ「まちの宝」に気づいていこう。今まで気づかなかったまちの側面を発見するのは楽しいよ。そして、みんなから声かけをしていこう。まちや人と自分との新しい関係、そんなひとつひとつの関係がいっぱい集まって、みんなの「ふるさと」になっていくんだ。

### 6月 テーマはバリアフリー

バリアって聞いたことある?ウルトラマンの怪獣がバリアをはった?…それぞれバリアって、壁(かべ)みたいなものだね。怪獣はバリアで相手の攻撃をはねかえすからいいんだけど、人間にとってバリアはどうか?家の中に壁やじまなものがおいてあると歩けない。道に自転車が置いてあったり、段差があるとお年よりや障害をもっている人が困るよね。

フリーっていうのはそういうのをなくすこと。探検するときとバリアだらけのため息が出てくるかもしれない。でも、この探検でそのバリアに気づくこと…どうしてそれがバリアなのか考えてみる。「バリアフリー」な社会にしていけるために、がんばれあそび隊!!

### 10月 テーマはアート

アート…芸術なんてむずかしそう?!! 図工と芸術とアートとどうちがうの?アートは一人一人の心にあるんだよ…みんなの心の中で何か感じたら感じたままをいろんな形に表せばそれでいいんだ!!物を作るときのドキドキワクワクはらはら…それが創造力につながる。自分で意味を作ること、感じること、創造すること…それがアートなんだ!

少し紹介しました。次回はみんなが体験したくわしい様子を報告します。

乞うご期待!!

#### 特定非営利活動法人

子どもネットワークセンター天気村

525-0033滋賀県草津市東草津1-1-15

TEL/FAX 077-564-7868

■5月4日滋賀県でチャレン大会が開催されます。

(あそびアスロン2001 滋賀県こどもの国ゾーン(安曇川) 主催:湖国21世紀記念事業協会)

天気村のボランティアの方とこのチャレン大会を一緒につけていきます。

天気村の皆さんはこれを機会に滋賀県内でチャレン遊び活動を一緒に続けて下さる仲間です。「あそびのきっかけづくり」をするというところもチャレンの役割と共通する活動仲間です。

5月4日のチャレン大会では、「みみずくねくね」「琵琶湖水きり」など琵琶湖周辺ならではのオリジナル種目も含め約10種目を予定しています。どなたでも参加できます。是非、ご家族でチャレン遊びの記録に挑戦しませんか?また運営サイドのボランティアスタッフの方も歓迎致します。(ピピタ編集室 水澤ゆたか)



## 特定非営利活動法人(NPO) 子どもネットワークセンター天気村 その3 子どもたちのエンパワメントを応援する 天気村の活動は続きます

代表理事 山田 貴子



あそび隊の活動の様子をお伝えします。

平成12年4月にあそび隊の発足式をかねて、「穴を掘る」というテーマでたけのこ掘りを企画しました。バスで20分ぐらいの山間に行きました。住んでいる所からさほど遠くない地域なのに、意外にも子ども達の感想は「すごい田舎!!」というイメージであったのはすこし驚きました。

普段、子ども達あるいは大人もそうかも知れませんが、わたし達の周囲の殆どの景観、景色など目に映るものは、直線的な環境で構成されています。街も建物も学校も整然としていて、美観が問われ、ややもすると無機質状態で子どもたちの環境が覆われています。

そのような環境に育った子ども達が、少しの山間を見て「田舎」と言う感想は、正直なところかもしれません。

子ども達が言う「田舎」には田んぼあり、山あり、家がポツリポツリとあり、普段目にする景観と全く違うと言っていいほど、目に穏やかな印象を与えるようです。

山に入ると早速、棒を拾い、棒を振り回して遊ぶ遊ぶ!!棒1本でこんなにも遊んだことがないほど。時間がたくさん流れているのにも気づかないほど。

子ども本来の姿を思い出したかのようになり、遊びの原点に立ち戻り元気になった子ども達を見て、周囲の者も元気になるから不思議です。

さて、そのあそび隊の活動が開始され、子ども達はあそび隊の情報機関紙「てんき予報」を見て、様々な活動、体験に参加します。その中でもポイント的にあそび隊の活動が充実していた事柄を紹介します。

10月のあそび隊のテーマはアート。テーマの場は、「草津市民の日」といって、市民のためのお祭りを青年

会議所のJCが開催したものでした。

日頃、あそび隊ではいろんな遊びを体験しています。今回は、自分達あそび隊で遊びのフリーマーケット・遊びの屋台村を企画(考える)して運営(実行)するプログラムを実施しました。遊びの体験の場の設営・設定をしました。

用意してあるのは、段ボール、木片、ボンド、クレヨン、ペンキ、ガムテープなどその他廃材が山積み。

集合してその朝に“今から何かゲームのできるお店を考えるのだ!!”というあそび隊隊長からの指令が出されました。

「えーと何つくる?」「ボク、チャンバラしょっと」「私、輪投げ屋さん」などと言ってすぐに取り掛かる子。「う〜ん・・・う〜ん」と難産??の末、「あてもん屋」や「さすらいの的あてゲーム」を考えたチームも登場。

看板づくりやお客さんが入りやすい様にお店のレイアウトも自分達で考えて、ちょっとした子ども起業家に変身していたあそび隊です。

このような子ども達の姿を見ていて、子ども達の内なる力「エンパワメント」を感じてしまいました。

今、様々な分野で「エンパワメント」ということが言われています。子どもの「エンパワメント」というのは、可能性が存在する限り自分でやってみようとする強い意志で、それは本来どの子ども達にも備わっています。

幼い0歳や1歳の子どもと接していると目新しいこと、自分の力が試せそ

うなことに強い関心を持ち、自分でチャレンジしてみようとする強い意志が感じられます。どんなに失敗しても、何度も何度も繰り返してやってみて、自分の中にある力に気がついて満足そうです。これこそ、人が生きる原点、「エンパワメント」ということではないでしょうか。

あそび隊の子ども達にとってもこの日の体験の中で、どのような状況でどのような判断を迫られても、自分達で考え、動き、そして満足していたこのワンシーンを決して忘れることはないでしょう。

また、いつか記憶の原点に立ち返ったとき、この気づきの大切さを感じることでしょう。

特定非営利活動法人NPO  
子どもネットワークセンター天気村

代表理事 山田 貴子

■特定非営利活動法人  
子どもネットワークセンター天気村  
525-0033滋賀県草津市東草津1-1-15  
TEL/FAX 077-564-7868

■5月4日滋賀県でチャレラン大会が開催されました。

(あそびアスロン2001 滋賀県こどもの国ゾーン(安曇川) 主催:湖国21世紀記念事業協会)

チャレランのスタッフとして学生さんなど30名を超える天気村のボランティアの方にご協力いただきました。ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回のチャレラン大会は五月晴れのもと1200名の参加者があり、大盛況でした。「みみずくねくね」「琵琶湖水きり」「まつぼっくりシュート」など天気村の皆さんのアイデアの琵琶湖チャレラン種目も人気でした。今後のピピタで紹介していきたいと思えます。

天気村の皆さんはこれを機会に滋賀県内でチャレラン遊び活動と一緒に続けて下さる仲間です。滋賀県・近隣の方で、天気村やチャレランに興味のある方は連携を組んでみてはいかがでしょうか? (ピピタ編集室 水澤ゆたか)